

上野村木工を、次世代を担う産業・人材育成へ

活動の経緯

群馬県で最も小さい自治体である。移住定住対策により、急激な人口減少は抑制されているものの、過疎高齢化は依然として進んでおり木工産業も、後継者不足による技術継承が行えない状況である。顧客ニーズの変化により売上額も減少しており、今後、産業の衰退も懸念されることから、上野村の重要な産業である木工業を基幹産業として維持発展させるため事業を開始した。

活動の概要

新たな木工職人の人材確保・育成を目的とした募集事業や各種イベントの開催や出展によるPR事業等を実施



令和元年度受入の木工技術研修生



令和2年度受入の木工技術研修生

活動の成果、主な実績等

平成30年度より木工家、森林組合などの人材確保、人材育成事業の取り組みを積極的に開始し、幅広い枠での受け入れ体制を整えて令和元年度に1名、令和2年度に1名の木工技術研修生（地域おこし協力隊）を確保し、木工家や森林組合での活動を通じて技術継承を行っている。

村の木工業を基幹産業として維持発展させるために、令和元年度より、木工家、森林組合など個々で取り組んできた活動を関係組織全体で検討を行う木工業活性化会議を実施し、村産材の杉材を活用したスツールの試作品等の商品開発を開始した。令和2年度からは村内の施設のリニューアル事業についても取り組みを開始している。